



## 会派黎明会行政視察報告

### 1. 北海道室蘭市

- ・視察者 藤倉憲、大山義一、田中二美江
- ・視察場所 生涯学習センターきらん
- ・視察日時 令和4年10月26日（水） 14：30～16：00
- ・視察項目 室蘭市生涯学習センター（きらん）整備運営事業について
- ・説明員 室蘭市教育委員会教育部次長 西舘 武志 氏
- ・視察目的

室蘭市は老朽化の問題を抱える複数の公共施設の機能を集約し、市民のニーズに対応した再整備を行った。本市も同様に松山市民活動センターや図書館等老朽化している施設があり、今後きらんのような先進事例を参考にする価値があると考えた。

#### ・要旨（報告事項）

生涯学習センターきらん整備運営においては DBO 方式を採用し民間のノウハウを活用したことで、設計、建設、維持管理運営のコストが抑制された。さらに、幅広い層の市民意見を募るため、公募によるまちづくり協議会（市民ワークショップ）を行ったことで、市民の意見・要望がより多く反映され市民サービスの向上が図られている。

#### ・視察結果、所感

世代や分野を超えた様々な人が「集まり」「出会う」多世代交流の拠点をコンセプトとして実施されてきた複合公共施設の整備事業だが、市民活動センターとしての機能は勿論のこと、音楽スタジオや茶室、料理スタジオ、工芸スタジオといった貸館機能をはじめ、ブックパーク（図書室）やキッズパーク、さらにはカフェ機能や交流ひろば等多機能施設となっており、視察に訪れたこの日も、数々設置された遊具で元気に遊ぶ親子の姿や、静かに将棋を指すお年寄りの姿、自習スペースで勉強にはげむ学生の姿がみられ、当初掲げたコンセプトのままに多世代の交流拠点として多くの市民の皆さまの憩いと学びの場として機能していると感じた。

## 2. 北海道苫小牧市

- ・視察者 藤倉憲、大山義一、田中二美江
- ・視察場所 沼ノ端クリーンセンター
- ・視察日時 令和4年10月27日(木) 13:30~15:00
- ・視察項目 沼ノ端クリーンセンター改良工事について
- ・説明員 環境衛生部次長兼ゼロごみ推進室長 鈴木 正武 氏  
ゼロごみ推進室施設管理課長 西内 義和 氏
- ・視察目的

本市のクリーンセンターは建設から40年以上が経過し経年劣化が進行するなか、昨年より東松山市、川島町、桶川市の三市合同の勉強会を行い報告書の取りまとめが行われた。それを受け本年1月に川島町、桶川市と「ごみ処理の広域化の推進に関する合意書」が締結されたところである。SDGsの観点からもCO<sub>2</sub>排出量の削減、エネルギーの有効利用等、環境に配慮した沼ノ端クリーンセンターの高性能な焼却設備を実際に見て学ぶため。

### ・要旨(報告事項)

#### ◆ 焼却施設概要

- ・処理能力 210トン/日(105トン/日×2炉)
  - ・焼却炉形式 全連続燃焼式焼却炉
  - ・余熱利用設備 発電、ロードヒーティング、冷暖房
- 完全燃焼、公害防止、エネルギーの有効利用を実現した焼却設備。

#### ◆ 粉砕施設概要

- ・処理能力 75トン/5h
- ・形式 一次粉砕機 低速回転式(2軸せん断式)  
二次粉砕機 高速回転式(ハンマークラッシュ式)
- ・選別方式 鉄類 磁気選別方式+風力選別方式  
アルミ類 永久磁気選別方式+風力選別方式  
可燃物 回転式選別機  
不燃物 回転式選別機+風力選別方式

粗大ごみ、不燃ごみの減量化、再資源化を実現したリサイクルシステム。

#### ◆基幹的設備改良工事主要目

施設延命化を目的とした主要設備の更新・改良と各種電動機の効率化、省エネ機器への更新により、電気使用量や燃料などを減らし、CO2の排出量の削減をおこなった。

#### ・視察結果、所感

沼ノ端クリーンセンターの基幹的設備改修工事された焼却設備は再資源化を実現したリサイクル率の高い素晴らしい施設である。また隣に併設されている埋め立て処分場も高度処理設備の技術を採用し、浸出水を適正に処理し下水道へ放流している。こうした施設整備もさることながら、苫小牧市では平成19年から053（ゼロごみ）大作戦と銘打ちまちぐるみでごみの減量とリサイクルに取り組んでいる。さらに平成25年から家庭ごみの有料化を開始。以降市民のごみ分別適正排出に対する意識の向上が図られ、家庭ごみの排出量が大幅に減量されている。今後、持続可能な循環型社会を構築するためには、廃棄物処理に限らず、更なるごみの減量と資源の有効活用の推進等、総合的な取組が必要と考える。

### 3. 北海道北広島市

・視察者 藤倉憲、大山義一、田中二美江

・視察場所 アクア・バイオマスセンター北広島

・視察日 令和4年10月28日（金） 10：00～11：30

・視察項目 北広島市下水道事業（地域バイオマス利活用）の取組について

・説明員 アクア・バイオマスセンター長 藤本 悟 氏

アクア・バイオマスセンター主査 砂田 優 氏

#### ・視察目的

北広島市では市内の下水汚泥、生ごみ、及びし尿・浄化槽汚泥を3種混合しバイオマス処理した後、取り出したメタンガスを有効利用するという大変先進的な取組みをおこなっていることから、その施設を実際に見て学ぶため。

#### ・要旨（報告事項）

実施までの経緯として、生ごみにおいては、最終処分場の残余容量が逼迫し、さら

に建設予定だった焼却施設の建設が延期となった。し尿においては、既存し尿処理施設の更新時期を迎えていた。そこで既存の下水施設を最大限に活用し、新たにバイオマス棟、余剰ガス燃焼棟、予備貯留槽、消化タンクの4施設を新設することで、下水汚泥、生ごみ、し尿・浄化槽汚泥、3種混合の受け入れを可能とした。施設施工費については、当時国交省がおこなっていた「下水道汚泥資源化先端技術誘導プロジェクト（ロータスプロジェクト）」を活用。事業効果としては、重油使用量の大幅な削減があげられる。汚泥乾燥や補助燃料として重油を使用していたが、生ごみ等の地域バイオマスを混合してから、バイオガス発生量が従来と比べ約20%程度増加したことから重油の使用量が大きく削減されている。バイオマス利活用事業直前の平成22年度には、重油を約108kℓ使用していたが、近年では数kℓとなり、当時と比較して年間100kℓ以上削減されている。これは0.100円として年間に換算すると1000万円になる。また温室効果ガスの削減にもつながっている。

#### ・視察結果、所感

本市とは取り巻く環境が異なることから、適していないと思われるが、重油の使用量削減や二酸化炭素の排出量の抑制にも寄与している。また汚水を浄化する際発生する汚泥は、濃縮、脱水、乾燥を経て肥料となり市内農家や市民及び公共緑地に100%還元していることから、持続可能な循環型社会を推進するものであり、素晴らしい取り組みであると考えている。